

2008年12月18日（木）
出張授業
進路学習「弁理士・発明・特許について」

2008年12月30日
三谷国際特許事務所
所長・弁理士 三谷祥子

2008年12月18日（木）、ベルリン日本人国際学校中学部にて、私、三谷祥子が、日本弁理士会知的財産支援センター支援員として出張授業を行いました。

●ベルリン日本人国際学校



◎ドイツ語学校名：

Japanische Internationale Schule zu Berlin e.V.

◎所在地：

Charlottenstr.10, 14109, Berlin, Germany

◎児童生徒数：30名（2008年8月現在）

◎教職員数：14名

（派遣教員7名，現地講師2名，ドイツ人講師3名，
英会話講師2名）（2008年8月現在）

（詳細はホームページ <http://www.jap-schule-berlin.de/> 参照。）

●出張授業の目的

第一に、中学部進路学習の一環として、「弁理士」という職業を中学生に紹介すること、次に、発明の概念、特許制度についても基本的な知識を得てもらうこと、さらに、日本の弁理士の世界における位置づけについても大まかに理解してもらうことを目的としました。

●授業の様子



中学部生徒9名と先生2名の参加者のみなさんに、パワーポイントで作成したスライドと電子紙芝居を使って説明しました。所要時間は説明35分、質疑応答25分の合計約1時間でした。

●内容

◎第一部 ——講師作成資料による説明——

○自己紹介

本授業の導入として、講師の経歴を紹介しました。

○発明、特許・・・弁理士（べんりし）？

「発明」「特許」という言葉はだれでも一度は見聞きしたことがあるはず。しかし「弁理士」という言葉を知る人は少ないでしょう。ここでは、日常生活で「発明」「特許」がどのような場面で使われているのかを紹介し、「発明」「特許」に対するそれぞれの知識や印象を思い出してもらいました。そして「弁理士」の英語名とドイツ語名を紹介し、「弁理士」を分かりやすく言い換えてその特徴を説明しました。

◎第二部 ——日本弁理士会電子紙芝居「レオ君物語」 ——

職業としての「弁理士」、「発明」「特許」と「弁理士」の関係について、まず身近な問題で正確な知識を得てもらうために、電子紙芝居「レオ君物語」を観てもらいました。授業時間の都合で第一部はあらすじの解説のみとし、第二部を上映しました。

◎第三部 ——講師作成資料による説明——

○弁理士の役割

- ・はじめに、企業、大学、発明家、弁理士、特許庁、裁判所のそれぞれが、技術的アイデア、発明、特許出願、権利を媒介してどのような位置づけにあるのかを、絵図を交えた説明で解説しました。。そのような中で弁理士が受け持つ役割について理解を深めてもらいました。
- ・次に、ドイツの電気メーカーが日本で新製品を発売するための特許出願の流れを紹介し、弁理士の仕事を具体的に思い描いてもらうと共に、特許出願手続の流れを大まかに理解してもらいました。
- ・さらに、特許庁の組織、特許審査の仕組みを簡単に解説しました。。
- ・最後に、特許権の趣旨、その趣旨に沿った弁理士の在り方についても解説しました。

○出願書類の実例

弁理士の重要な業務の一つである明細書作成作業を具体的に紹介するために、「レオ君物語」には製パン技術の発明が登場する。実際に出願された製パン分野の公開公報と、中学生に親しみのあるゲーム機分野の公開公報を配布し、明細書がどのようなものかを実際に見てもらいました。

○世界の中で

ドイツ、欧州、アメリカ、中国、日本の特許庁とその所在地、それぞれの特許庁が受理する特許出願数、それぞれの国・地域で権限を持つ弁理士数を比較し、世界における日本発特許の重要性と日本の弁理士の役割の大きさを理解してもらいました。さらに、世界が理想とする「世界特許」へ向けた各国の取り組みについても簡単に紹介しました。

○弁理士になるには？

日本の弁理士になるための資格や必要とされる知識について解説しました。また、弁理士が日常どのような形態で働いているのかを紹介しました。

◎第四部 ——質疑応答——

Q1 出願してからどのくらいで特許を取れるのですか。

A1 現在、出願してすぐに調べてくださいとお願いしたら、だいたい2年かかります。ヨーロッパでも同じくらいです。

Q2 そんなに長くかかるんですか……。どうしてですか。

A2 何も2年間も特許庁の審査官が書類を眺めているわけではないんです。込んでいる病院を思い出してください。3時間待ち3分診療っていいですよ。それと同じです。何しろ一年に20万件も審査しなくてはいけないので、書類が列を作って待っているんです。今は特許庁の4階のスーパーコンピュータの中に記録されているのですけれど、2年待たされて、ようやく列の先頭にくるわけです。審査にとりかかると実際は2、3日で何らかの答えが来ます。たしかにそんなに長く待っているのは商売にならないですよ、日本では、理由があれば特別に早く審査をしてもらうことができ、そうすると半年くらいで結果をもらえます。

Q3 （電子紙芝居で）工夫は何でも発明って言っていましたが、悪いこととか……。やっちゃいけないことは、だめなんですよ。

A3 スピード違反取締機から逃げる装置とか、時限爆弾の作り方とか、そういうことです。そうそう、そういう社会に害があるものは、特許をとれません。

Q4 バンダイのカラオケ、特許ですか？ たしか特許だって聞いたことがあります。

A4 詳しく覚えていなくてすみません。ゲームの技術にはものすごくたくさんの特許があります。きっと関係する技術で特許をとっていると思いますよ。

Q 5 デジカメも特許ですか？

A 5 デジカメは特許のかたまりです。デジカメを分解したら何百もの部品に分かれますよね。一つの新しいカメラを作るときには、部品の一つ一つについて特許を出願している、と考えていいです。カメラの蓋の開け閉め、レンズ、それぞれに特許を出すと思ってください。

Q 6 三谷さんは特許庁で特許の審査をしていたんですよね、これは面白いっていう特許はありませんでしたか？

A 6 私の審査した特許出願というのは、化学、特にプラスチックの原料で、形がないものだったんです。化学式が並んだ書類ばかり見ていましたので、いわゆる珍発明、みんなが驚く発明を扱うことはほとんどありませんでした。でも、そういう面白い発明は審査官の間でも話題になりますよ。たとえば、日本の卵パック。透明なプラスチック製で、箱の端の糸を引っ張ると上下にパカッと開く・・・日本にいたときに見たことがありますか？あれは、15年ちょっと前に特許になりました。コンビニのおにぎりの袋も今までいろいろなものがあつたでしょう？はじめはおにぎりの上からぎゅ〜っとフィルムを引っ張り出していましたよね。今はとても簡単です。ああいうパッケージもたくさん特許出願されています。

Q 7 軍事も特許ですか？ ミサイルとか。

A 7 殺人道具と書いて書類を出すと、さっき話した「悪いこと」になって特許を取れませんが、推進装置、とか、追跡装置という名前で特許を取ることができます。これはちょっと専門的で難しいですが・・・

Q 8 特許になってからの有効期間のようなものってあるのですか？

A 8 すばらしい質問で。日本では出願した時から20年間有効です。

Q 9 どうして日本の特許出願はあんなに多いのですか？

A 9 またしてもいい質問で。日本の昭和40年代から50年にかけて、工業、経済がとてもさかんになりましたよね。あの頃、特許を出すのが盛んになって、できるだけ多くの出願をする習慣のようなものが出来上がったと考えられます。最近「右のボタンを左に付け替えたような日本の特許」と言われてきたことを反省して、また、お金の節約のために、量より質を大切にしようという変化がでてきました。

●生徒さんの感想

後日、以下のような感想を記した感想文集が寄せられました。

- ・ 弁理士、発明、特許についてよくわかりました。
- ・ 特に「レオ君物語」は面白く、とてもわかりやすかった。
- ・ 三谷さんの説明に工夫があり夢中になりました。
- ・ 将来の職業について授業でやっていますが、弁理士というのも楽しそうだなと思いました。
- ・ 弁理士の仕事について聞いて、このような職業もあるのだなあと思いました。またひとつ、自分の新しい道ができたと思います。
- ・ 特許を申請してから2年もかかるのは大変なことだと思いました。2年かかっても納得のいく発明をしたいと思いました。その際はよろしくお願いします。
- ・ 私は弁理士になる確率は低いと思います。けれどこうやってあのコンビニのおにぎりの袋が登場したというのにびっくりしました。これからも弁理士の活躍を楽しみにしています。
- ・ レオ君、シン君、キヨじいさんが、どうしてこのような名前になったのか気になりました。

●講師の所感

「弁理士」という言葉を全く聞いたことのない生徒さん達に、専門用語や漢字はどのくらい理解してもらえるのか、進路学習としてどこまで特許や発明のことを盛り込んでよいのか・・・出張授業の依頼を受けた時には迷っておりました。生徒さんたちも「弁理士の仕事について話を聞く」と言われても全くイメージをいだけなかつたのでしょう。教室に集まった時、私も生徒さんも先生方も「どうなるのかしら」といった面持ちでした。

しかし、「レオ君物語」を見終わったころには生徒さんたちの表情は随分と和らぎ、スライド「弁理士の役割」の説明中には生徒さん、先生方がそれまでよりも身を乗り出して注目してくださり、私の不安はすっかりかき消されました。11人の聴衆の皆さんの熱い視線に支えられ、私は清々しい気分で説明を終えることができました。

質疑応答では、権利期間、特許要件としての公序良俗違反、秘密特許につながる軍事技術出願など、特許制度の核心を突く質問や難易度の高い話題も登場し、生徒さん・先生方の理解力の高さと想像力の豊かさに驚かされました。授業前にこれほど大きな反響を期待していなかったことを反省すらしめてしまいました。授業後いただいた感想文集には、将来の選択肢が広がったとのうれしい言葉や、励ましの言葉を見つけ、身に余るほどの嬉しさを覚えました。熱心に参加してくださった生徒の皆さん、有難うございました。お疲れ様でした。

先生方からは、特に「レオ君物語」は学年を問わず分かりやすく楽しめる教材とのおほめの言葉をいただきました。私自身もこの電子紙芝居は教材として大変すぐれたものと思っています。教材について御助言・御協力くださった日本弁理士会知的財産支援センター各位、同広報・支援・評価室各位に、心より御礼申し上げます。

本授業では、私自身が弁理士と知的財産について再考し、生徒さんの柔らかな発想に刺激を受けることができました。このような素晴らしい経験を与えてくださったベルリン日本人国際学校各位に深く感謝致します。

以上